

超精密とメカトロメーションを追求する

Seibu

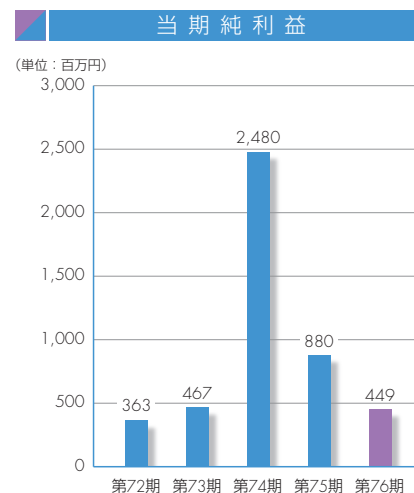
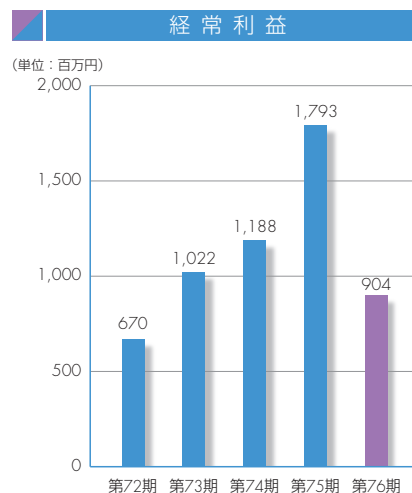
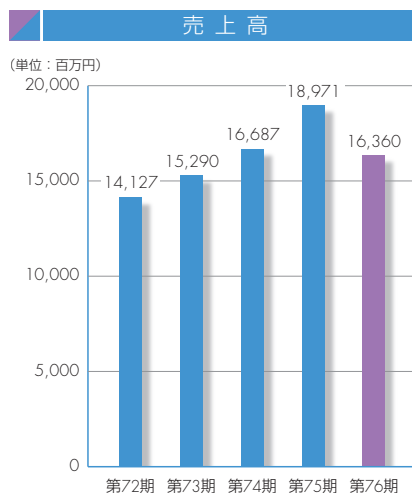
第76期 株主報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

西部電機株式会社

業績ハイライト

科目	第72期 平成16年度	第73期 平成17年度	第74期 平成18年度	第75期 平成19年度	第76期 平成20年度(当期)
売上高(百万円)	14,127	15,290	16,687	18,971	16,360
経常利益(百万円)	670	1,022	1,188	1,793	904
当期純利益(百万円)	363	467	2,480	880	449
1株当たり当期純利益	25円18銭	32円34銭	177円57銭	62円58銭	31円92銭
総資産(百万円)	22,255	23,307	27,256	26,388	24,286
純資産(百万円)	10,431	11,748	13,963	13,983	13,652
1株当たり純資産額	754円88銭	840円55銭	998円73銭	990円48銭	971円27銭



(注) 第74期は、土地の売却益なども加わり、最高益を確保することができました。

株主の皆様へ



取締役社長 吉任一成

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第76期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

平成21年6月

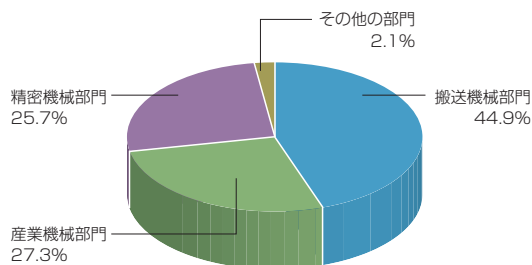
業績の概況

(1) 当連結会計年度の事業の状況

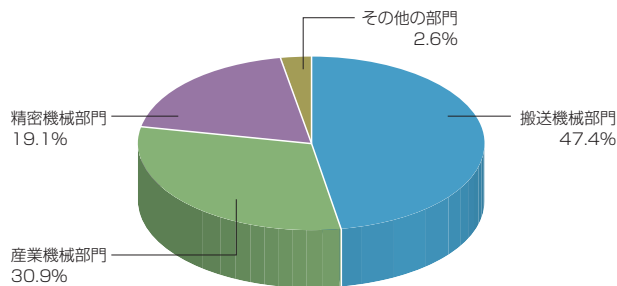
当連結会計年度におけるわが国経済は、米国金融市場の混乱により、内外需とも停滞感を強めながら推移しておりましたが、金融市場の危機が世界に広がり、实体经济にも拡大し、景気は、過去に経験したことのない猛烈なスピードで大幅に減速してまいりました。

このような情勢の中で、当社グループは新商品の開発、提案型営業の積極的展開、品質ならびに生産性の向上に努力してまいりました。しかしながら、当社グループの連結業績は、円高による輸出の減少に加え、内外需の急激な落ち込みによる設備投資圧縮の影響を受け、受注高は137億8千4百万円（前期比29.4%減）、売上高は163億6千万円（前期比13.8%減）と減少いたしました。利益面では、下期以降の急激な売上の減少に対応して、コストダウンや経費削減等当社グループを挙げて注力いたしました。経常利益は9億4百万円（前期比49.5%減）、当期純利益は4億4千9百万円（前期比48.9%減）となりました。

●売上高構成比率



第75期 平成19年度



第76期 平成20年度

(2) 対処すべき課題

次期のわが国経済は、企業収益の悪化に伴う設備投資の減少や雇用・所得環境の悪化による個人消費の低迷などから、暫くは内外需とも減速基調で推移するものと思われます。

当社グループといたしましては、変化する経済環境を十分に認識いたし、景気に左右されないオンリーワンの新商品の開発と、これらの市場投入による受注・売上の拡大、更にはコストダウンや経費削減に一層注力し、企業体質の強化に邁進いたします所存であります。

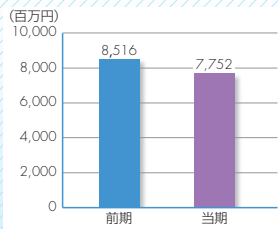
株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

部門別売上状況（連結）

【搬送機械部門】

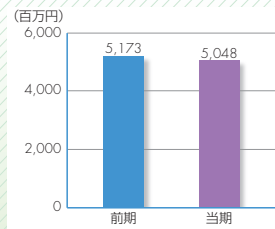
搬送機械部門では、小型自動倉庫や製造業の生産物流分野などにも既存のピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。しかしながら、

昨年秋以降、実体経済の悪化に伴う設備投資抑制の影響を受けるなど厳しさが増してきました。その結果、受注高は61億2千1百万円（前期比33.1%減）、売上高は77億5千2百万円（前期比9.0%減）となりました。



【産業機械部門】

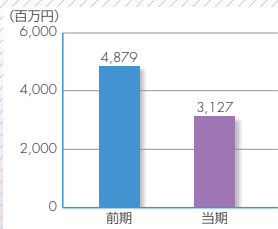
産業機械部門では、公共投資抑制の影響を受けるなど厳しい環境の中でしたが、新商品の市場投入による民間需要の掘り起こしや既存市場におけるシェアアップに注力いたしました。その結果、上下水道、電力、鉄鋼市場の更新需要などが牽引し、受注高は50億8千7百万円（前期比0.5%増）、売上高は50億4千8百万円（前期比2.4%減）となりました。



【精密機械部門】

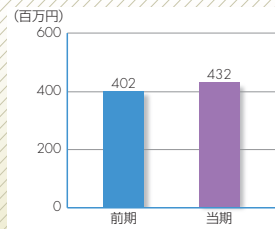
精密機械部門では、新商品の市場投入ならびに新規商社の開拓や輸出に注力するとともに、放電機械は半導体やデジタル家電向け、工作機械は光学市場の新規顧客開拓や自動車・IT業界などに拡販を図ってまいりました。しかしながら、円高に加え、世界的な需要の減退から業界全体が過去に経験したことの無い急激な

スピードで落ち込み、受注高は21億5千1百万円（前期比56.3%減）、売上高は31億2千7百万円（前期比35.9%減）と大幅に減少いたしました。



【その他の部門】

その他の部門では、駐車場装置や営繕工事の増加などにより、受注高は4億2千4百万円（前期比7.9%増）、売上高は4億3千2百万円（前期比7.5%増）となりました。



トピックス

「配送作業効率化のための食品仕分システム開発」 - マテハン事業部 -

コンビニエンス市場における多品種少量の仕分けのニーズにお応えるため、「食品仕分システム」を開発いたしました。

このシステムは、人手によるピッキング作業での欠品及び誤配を大幅に低減し、お客様から高い評価をいただいております。

従来のシステムでは、棚に格納したコンテナに商品を追加ピッキングすることが不可能でした。

しかし、今回開発した仕掛かり戻り機能では、棚に格納したコンテナを再びピッキング作業ラインに戻すことが可能となり、追加ピッキングすることで投入する商品数を増やすことができるようになりました。出荷コンテナ数も削減され、配送作業の効率アップと時間短縮が可能となりました。

既に納入実績もあり、今後の拡販が大いに期待されます。



「食品仕分システム」

「Semflex® 緊急遮断ゲート・システム」 - 産業機械事業部 -

サーボ駆動方式のゲート開閉アクチュエータ、Semflex®-LPシリーズの基本シリーズ（1ton～10ton）を2006年度に発売開始いたしました。

その後、大容量シリーズ（10ton～30ton）、ワイヤドラム方式シリーズ、チェーン方式シリーズとラインナップ開発を行い、充実したSemflex®-LPシリーズを完成させました。

当シリーズは、発売開始後大変好評を博し、国土交通省をはじめとする官公庁のお客様はもとより、新たに民間企業のお客様からも環境対策用として、有事の工場排水緊急遮断用としてのご採用が増加いたしました。

これらのニーズに立脚し、新たに「Semflex®緊急遮断ゲート・システム」として、Semflex®-LPシリーズを核とし、工場管理システムとのインターフェースや制御装置、ゲート、電気工事、据付工事等、一式のソリューションをシステム商品として開発し、発売を開始いたしました。既に納入実績も増え、様々な業種のお客様からお引合いをいただき、今後の拡販が大いに期待されます。



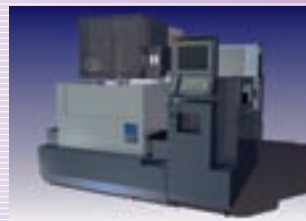
「Semflex® 緊急遮断ゲート・システム」

「M50A」（高精度ワイヤ放電加工機） - 精密機械事業部 -

放電機械部門では、効率化が要求される市場ニーズに対応した高精度ワイヤ放電加工機「M50A」を開発いたしました。この機械は好評を博した「Mシリーズ」をベースに、更に高性能、省スペース化を実現いたしました。開発商品の特徴としては、

- ① 加工槽に上下スライド扉を採用
- ② 省スペース化を実現（当社比：M500Sに対して、設置面積比で35%減）
- ③ 環境を配慮し、新型加工電源の開発で消費電力を最大で35%減
- ④ 最新鋭のCNCを搭載し、処理性能が向上

また、自動化に欠かせない自動ワイヤ供給装置も標準装備し、断線点供給をはじめとする多彩な機能で長時間無人化運転を実現しました。より一層の効率化が要求される市場ニーズにマッチしたマシンとして、拡販が大いに期待できます。



「M50A」

「SuperMM500S」（高精度ワイヤ放電加工機） - 精密機械事業部 -

同じく、放電機械部門では、高精度ワイヤ放電加工機「SuperMM500S」の販売を開始いたしました。

この「SuperMM500S」は、当社が世界で初めてCNCワイヤ放電加工機を発表して以来37年間、加工精度の確保を「メカ精度」に求め、追求してきた歴史の中で、過去最高の精度を誇るマシンとして仕上げました。

直角度精度、ピッチ精度もサブミクロンの精度を達成し、ジグ研レス金型製作を提案できる画期的なマシンです。更にオプションとして超精密、微細加工に欠かせないφ0.05ワイヤ仕様を追加し、独自の自動供給技術で、高効率供給を実現いたしました。今後の拡販が大いに期待されます。



「SuperMM500S」

「新工場建設（マテハン工場）」

マテハン工場を昨年12月に竣工いたしました。
※延べ床面積8,000平方メートル
本社敷地内で2006年から進めてきた産業機械工場、加工センタ工場、マテハン工場の3期にわたる建て替え工事を完了いたしました。
新工場の稼動を機に旧工場時代に比べ、3割以上の生産性向上を目指します。



国際物流総合展 2008

■会期 平成20年9月9日（火）～9月12日（金）
■会場 東京国際展示場（東京ビッグサイト）

「未来を創造するロジスティクスイノベーション」人と環境にやさしい物流システムをメインテーマに国際物流総合展2008が開催されました。

今回、当社では新しい仕分システム「ピース仕分装置 種まきブーメランシステム」を出展し、コンパクトなケース・ソーターとデジタル表示システムの組み合わせに、ロボットによるピッキングを加え、ピース単位での多品種少量の仕分け、荷揃えを従来に無い少人・省スペースで行うことができる全く新しいソリューションに、業界関係者より大好評をいただきました。



2008 名古屋水道展 （第42回 水道資機材展示会）

■会期 平成20年10月29日（水）～10月30日（木）
■会場 名古屋市国際展示場（ポートメッセ名古屋）

「水道の安全は、社会の安心です。計画的な更新を！」をテーマに名古屋水道展が開催され、当社はSemflex®-VM、VPタイプバルブアクチュエータ（PROFIBUS対応タイプ）のデモシステムを構築し展示発表いたしました。

当社ブースには約250人來客され、新型機の性能、導入事例・仕様等について関心を示されるお客様も多く、近年の水道展にはない反響をいただきました。



JIMTOF 2008 （第24回日本国際工作機械見本市）

■会期 平成20年10月30日（木）～11月4日（火）
■会場 東京国際展示場（東京ビッグサイト）

本展示会は米国国際工作機械展（IMTS）、欧州国際工作機械展（EMO）とともに、世界の三大工作機械見本市に数えられており、当社は、大幅な省スペースと省エネを実現した最新CNC搭載の新品、高精度ワイヤ放電加工機「M50A」、匠の技「きざげ」によって、更に高品質を造り込んだ高精度ワイヤ放電加工機「SuperMM500S」、研削+切削+計測の複合化を高い時点で実現し、外径・内径・端面・テーパ・ストレートをOneチャックで、自由形状研削加工を可能にした高精度小型研削加工機「SNC-28TG」を展示しました。



連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期末 平成21年3月31日	前期末 平成20年3月31日
(資産の部)		
流動資産	12,334	14,007
現金及び預金	3,192	4,281
受取手形及び売掛金	6,764	7,249
たな卸資産	—	2,134
仕掛品	1,079	—
原材料及び貯蔵品	1,071	—
繰延税金資産	193	288
その他	53	66
貸倒引当金	△ 21	△ 13
固定資産	11,952	12,380
有形固定資産	9,105	8,278
建物及び構築物	3,215	2,433
土地	5,115	5,115
その他	774	729
無形固定資産	26	21
投資その他の資産	2,820	4,080
投資有価証券	1,437	2,259
繰延税金資産	638	385
投資不動産	19	19
長期貸付金	26	27
その他	753	1,418
貸倒引当金	△ 56	△ 30
資産合計	24,286	26,388

科目	当期末 平成21年3月31日	前期末 平成20年3月31日
(負債の部)		
流動負債	6,881	8,433
支払手形及び買掛金	4,482	5,718
短期借入金	620	620
未払費用	843	1,069
未払法人税等	199	502
役員賞与引当金	18	32
その他	717	490
固定負債	3,752	3,971
長期借入金	336	336
長期未払金	174	266
再評価に係る繰延税金負債	1,989	1,989
退職給付引当金	1,096	1,165
役員退職慰労引当金	153	212
その他	1	1
負債合計	10,634	12,404
(純資産の部)		
株主資本	10,538	10,326
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,503
利益剰余金	5,667	5,415
自己株式	△ 289	△ 251
評価・換算差額等	3,113	3,657
その他有価証券評価差額金	211	756
土地再評価差額金	2,901	2,901
純資産合計	13,652	13,983
負債純資産合計	24,286	26,388

■ 連結損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上	16,360	18,971
売上原価	12,553	14,066
販売費及び一般管理費	3,807	4,904
営業外収益	2,971	3,193
営業外費用	836	1,710
受取利息	105	103
受取配当金	15	19
受取利息	35	34
受取配当金	14	13
受取利息	13	3
受取配当金	4	4
受取利息	7	16
受取配当金	13	11
受取利息	36	21
受取配当金	15	15
受取利息	16	2
受取配当金	3	3
経常利益	904	1,793
特別利益	0	2
特別損失	0	—
特別利益	0	2
特別損失	0	0
特別利益	70	277
特別損失	36	11
特別利益	16	—
特別損失	—	45
特別利益	14	97
特別損失	1	113
特別利益	0	8
特別損失	835	1,518
特別利益	255	561
特別損失	129	75
当期純利益	449	880

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 339
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 812
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 236
現金及び現金同等物の減少額	△ 1,389
現金及び現金同等物の期首残高	4,281
現金及び現金同等物の期末残高	2,892

■ 連結株主資本等変動計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
平成20年3月31日残高	2,658	2,503	5,415	△ 251	10,326	3,657	13,983
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 197		△ 197		△ 197
当期純利益			449		449		449
自己株式の取得				△ 60	△ 60		△ 60
自己株式の処分		△ 0		21	20		20
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 544	△ 544
連結会計年度中の変動額合計	—	△ 0	252	△ 38	212	△ 544	△ 331
平成21年3月31日残高	2,658	2,502	5,667	△ 289	10,538	3,113	13,652

単体財務諸表（要約）

■ 貸借対照表

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期末	前期末
	平成21年3月31日	平成20年3月31日
(資産の部)		
流動資産	11,576	13,367
固定資産	12,009	12,442
有形固定資産	9,156	8,331
無形固定資産	25	20
投資その他の資産	2,827	4,090
資産合計	23,586	25,809
(負債の部)		
流動負債	6,552	8,133
固定負債	3,723	3,944
負債合計	10,275	12,077
(純資産の部)		
株主資本	10,199	10,075
資本剰余金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,503
利益剰余金	5,328	5,165
自己株式	△ 289	△ 251
評価・換算差額等	3,110	3,656
純資産合計	13,310	13,731
負債純資産合計	23,586	25,809

■ 損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科目	当期	前期
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで
売上高	15,141	17,889
売上原価	11,675	13,291
売上総利益	3,466	4,597
販売費及び一般管理費	2,796	3,053
営業利益	669	1,544
営業外収益	119	109
営業外費用	36	21
経常利益	752	1,632
特別利益	0	1
特別損失	74	286
税引前当期純利益	678	1,347
法人税、住民税及び事業税	188	493
法人税等調整額	129	75
当期純利益	360	778

■ 株主資本等変動計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

当 期	株主資本					評価・換算差額等	純資産合計	
	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			株主資本合計
平成20年3月31日残高		2,658	2,503	5,165	△ 251	10,075	3,656	13,731
事業年度中の変動額								
剰余金の配当				△ 197		△ 197		△ 197
当期純利益				360		360		360
自己株式の取得					△ 60	△ 60		△ 60
自己株式の処分			△ 0		21	20		20
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）							△ 545	△ 545
事業年度中の変動額合計		—	△ 0	163	△ 38	124	△ 545	△ 421
平成21年3月31日残高		2,658	2,502	5,328	△ 289	10,199	3,110	13,310

会社の概況・株式の状況 (平成21年3月31日現在)

■ 会社の概況

- 商 号 西部電機株式会社
- 英 訳 名 Seibu Electric&Machinery Co.,Ltd.
- 本店所在地 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
- 設 立 昭和14年2月1日
- 資 本 金 26億5,840万円
- 従業員数 434名 (連結478名)
- 役 員 (平成21年6月26日現在)

取締役社長 (代表取締役)	吉 住 一 成
専務取締役	局 彬
常務取締役	宮 地 敬 四 郎
常務取締役	木 村 稔
取 締 役	大 串 秀 文
取 締 役	藤 岡 敬 正
取 締 役	木 谷 泰 博
取 締 役	中 里 晋 也
取 締 役	税 所 幸 一
常勤監査役	平 塚 皓
監 査 役	小 西 正 純
監 査 役	鬼 頭 正 雄

(注) 監査役小西正純、鬼頭正雄の両氏は社外監査役であります。

■ 株式の状況

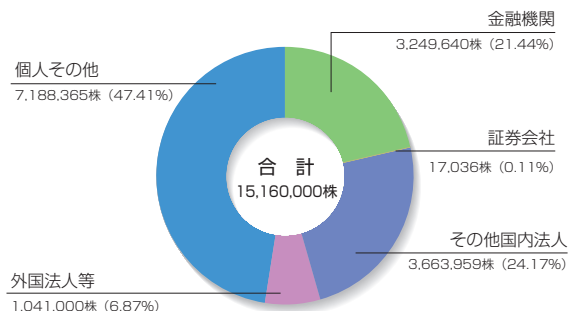
- 発行可能株式総数 32,980,000株
- 発行済株式の総数 15,160,000株
- 株 主 数 1,663名
(前期末比19名増)

●大 株 主

株 主 名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社安川電機	2,630	18.71
株式会社三菱東京UFJ銀行	650	4.63
株式会社福岡銀行	633	4.50
みずほ信託銀行株式会社	626	4.45
株式会社西日本シティ銀行	589	4.19
西部電機従業員持株会	428	3.04
エスジーエスエス/エスジーピーティ ルクス	424	3.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	283	2.01
村上 博	215	1.52
バンクオブニューヨークジーシーエムクライアント アカウントズジーピーアールイーシーアイティアシー	194	1.38

(注) 1. 当社は、自己株式1,103,993株を所有しております。
2. 出資比率は自己株式(1,103,993株)を控除して計算しております。

●所有者別分布状況



超情報とメカトロメーション®を追求する

Seibu

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.seibudenki.co.jp/) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 および特別口座管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問合せ先 〔郵便物送付先〕 〔電話問合せ先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

ホームページのご案内



<http://www.seibudenki.co.jp/>

